

4-9 小倉城 [夜間景観魅力アップ事例]

小倉都心地区で実際に夜間景観の魅力アップを図った事例です。周辺の散策路の魅力アップイメージ(例)も紹介します。

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・ビューポイントの増設
- ・メリハリのある天守閣のライトアップ
- ・石垣の表情を美しく演出
- ・唐造りの天守や野面積みの石垣など、小倉城の特徴を活かす
- ・安心して歩ける空間づくり

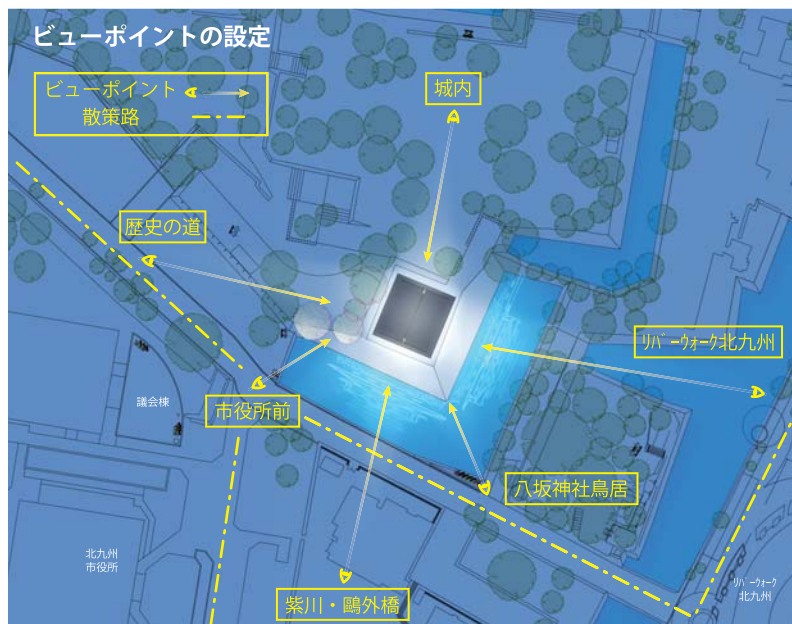


この光は目を閉じて消えない 水鏡の城

歴史情緒と新しい文化が混在する小倉都心地区のシンボルである小倉城。LED光源を使用した照明器具により省エネに配慮しながら、品格のある佇まいを感じさせる演出をしました。白壁の美しさを引き立て、細部の構造美を見せるライトアップにより、お堀の水面に映し出される姿が幻想的な世界観を創出しています。

<照明デザインポイント>

- ・屋根と白壁のコントラストを際立て遠景からの視認性を高める
- ・野面積みの石垣の素朴ながら豪快な表情を繊細にライトアップ
- ・鯨や垂木、破風などを細やかに照らして城の構造美を魅せる
- ・水面に映り込む幻想的な小倉城の姿を創出
- ・ライトアップされた城を見るためのビューポイントの設定
- ・白壁や手摺りのあかりにより動線を明確にし回遊性を高める



- ・周囲への光漏れやまぶしさの影響がないよう設置場所を検討
- ・取付場所に応じて器具の色・基礎の素材を検討
- ・人の手が届く場所はボックス等を用いて器具をカバー
- ・長寿命な光源、耐久性の高い素材を選定
- ・ビューポイントから光源が視界に入らないよう検討



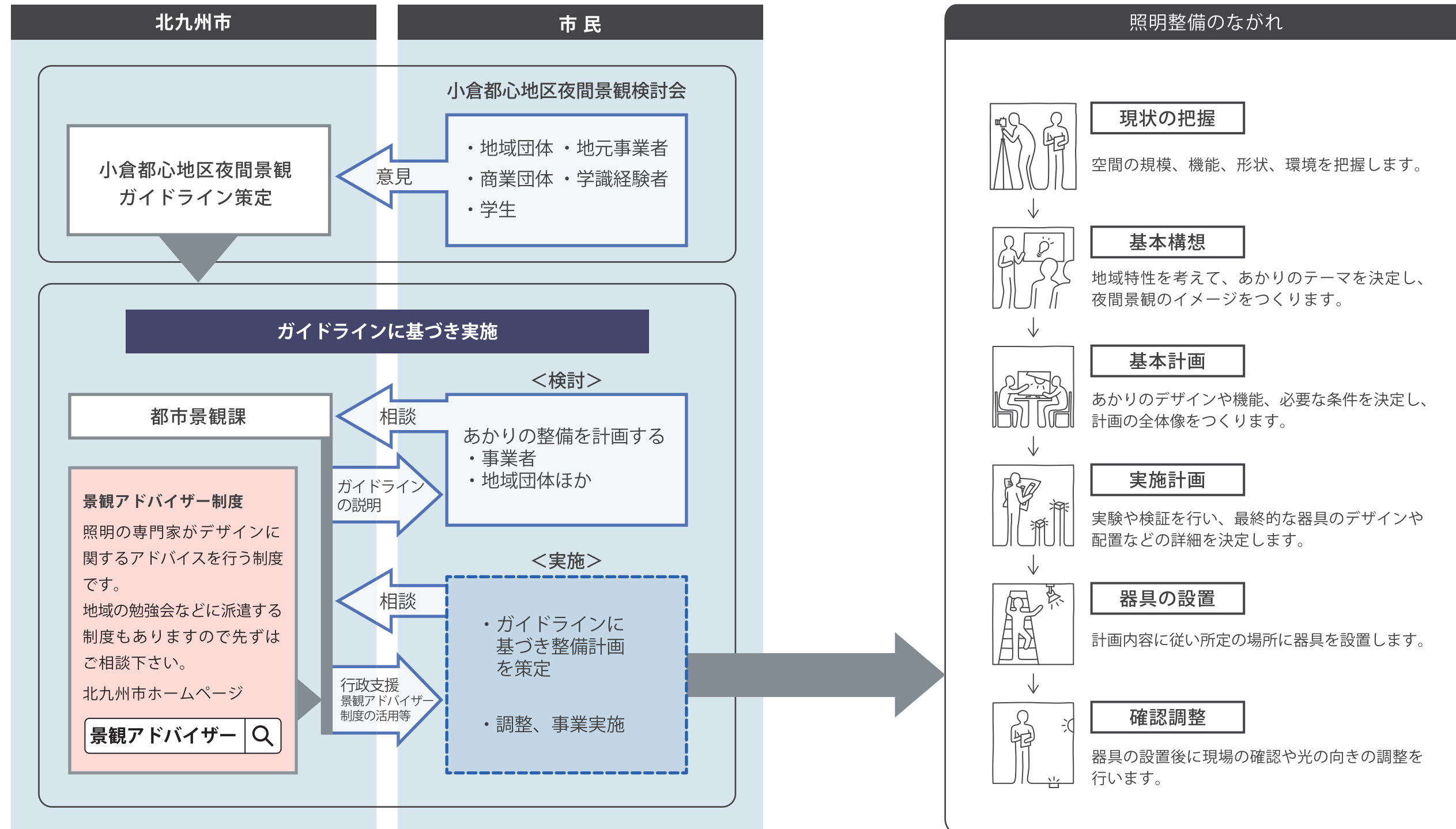
小倉城天守閣を間近に見ることができる「歴史の道」のライトアップを行うことで、歩行者の安全性の確保と昼間とは異なる表情を演出し小倉城のブランド価値を高めることができます。白壁をライトアップすることで通りの明るさを確保し城下の風情を創出できます。またお堀の手摺りに足元を照らす照明を設置することで、あかりの連続性が生まれ来訪者に城内への回遊を促すことができます。

第5章 魅力ある夜間景観づくりの進め方

小倉都心地区の夜間景観のあり方について「小倉都心地区夜間景観検討会」を開催し、地域団体や地元事業者、商業団体、学生、学識経験者など様々な立場の方からご意見、ご提案をいただきました。

「小倉都心地区夜間景観ガイドライン」が完成し、いよいよ夜間景観づくりのスタートです。

夜間景観を形成するのは、街並みをつくるすべての施設です。一つ一つの施設「点」が持つ魅力をあかりで彩りましょう。個別でももちろん、より整備効果を実感するために地域で夜間景観づくりを計画的に行うことも一つの方法です。ここでは、実際に照明計画を行い、整備するまでの具体的な流れを紹介します。



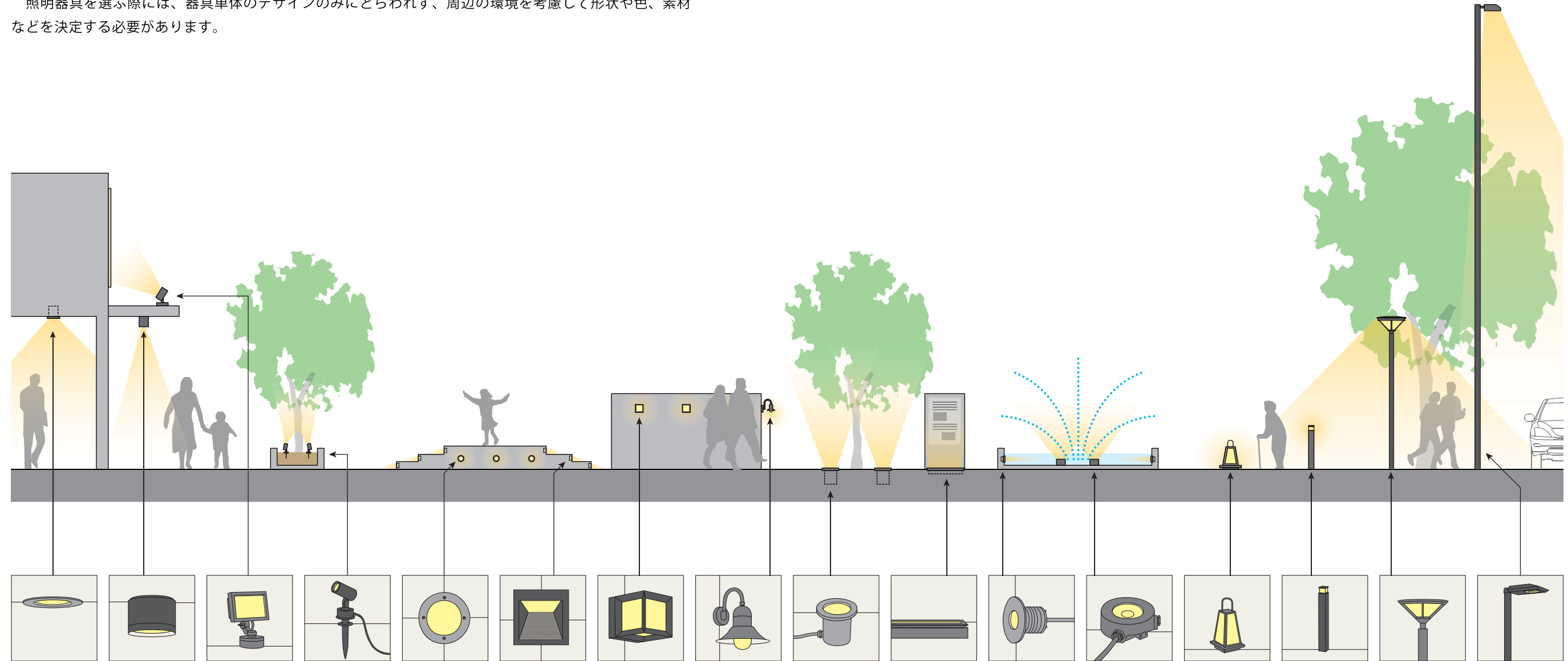
第6章 あかりの基礎知識

ここでは照明技術について説明します。

6-1 照明器具の種類

道路や公園、建物のライトアップで使用される照明器具は、屋外型照明器具として、降雨や衝撃などの厳しい条件にも耐えられる構造になっています。器具の種類は、道路で用いられるポール灯や、歩道や公園で用いられる足元の明かりをとるためのフットライト、また地中埋設型器具や水中照明などバリエーションに富んでいます。

照明器具を選ぶ際には、器具単体のデザインのみにとらわれず、周辺の環境を考慮して形状や色、素材などを決定する必要があります。



ダウンライト

建物の軒先やひさしなどに設置して使います。天井埋込みタイプと天井部直付けタイプがあります。建物の入口や、屋外の特徴を強調する場合などに使用します。

フラッドライト

床面や壁面に設置して使用するのが一般的です。様々な配光を選ぶことができ、照射角度を変えられるため、植栽や建物の壁面などのライトアップに適しています。

フットライト

階段の蹴上げ部分や床から30cm程度の高さに取り付けて足元を照らすときに使います。柔らかく発光するタイプ、床面を強く照射するタイプなどがありますがグレアに配慮した器具を使用する必要があります。

ブラケット

道路に面した建物の壁面などに設置して使います。形状によっては歩行面を照らすと同時に壁面も照らしアクセントとなります。

地中埋設型器具

器具本体を地中に埋め込み、発光面が床面とほぼ同レベルになる器具です。反射鏡制御により植栽や彫刻、建物の壁面などを照らし上げるタイプと、柔らかく発光して誘導灯として使われるタイプに分けられます。

水中照明

噴水や滝などを照らし上げるフラッドライトタイプとプールの壁面に設置して水中を照らすタイプに分けられます。水の動きや水面への光の映り込みに合わせて器具を選びましょう。

庭園灯・ポールドライト

高さ0.3~1.5m程度のものが主流です。配光やデザインのバリエーションが多く道路や公園、建築外構など様々な場所で使用されます。

ポール灯

一般には街路灯として使われる高さ3mから10m程度のものを指します。発光部の違いにより光の質が異なりますが、広い面積を少ない本数で効率よく照らすことができます。

6-2 色温度 (K)

光には青味がかかったものや黄味がかかったものがあり、光の色の違いを表わす尺度として色温度が用いられます。単位はケルビン (K) を使用します。色温度の違いはまちの雰囲気大きく影響し、色温度の高い青みがかかった光は活発な印象を与え、色温度の低い黄みがかかった光は落ち着いた印象を与えます。

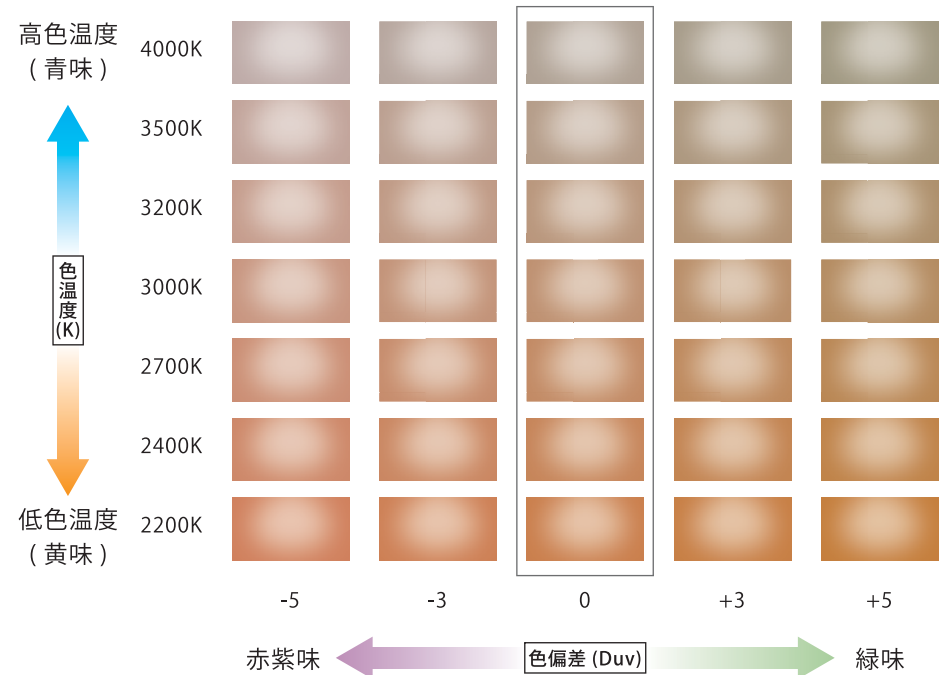


色温度の目安

2500K ~ 3000Kの柔らかな色温度
(低い色温度の光には虫が集まりにくい)

6-3 色偏差 (Duv)

光源の色には色温度 (K) の他に色偏差 (Duv) という指標があります。色偏差は緑味から赤紫味の変化を表す指標であり、色温度が同じでも色偏差の違いで光色のイメージが異なります。色温度をコントロールしたうえで、まちの表情によって色偏差を変化させることで、より繊細に夜間景観を魅力あるものにすることができます。



色温度と色偏差の関係 (2200K ~ 4000K、Duv -5 ~ Duv +5 の範囲)

6-4 演色性 (Ra)

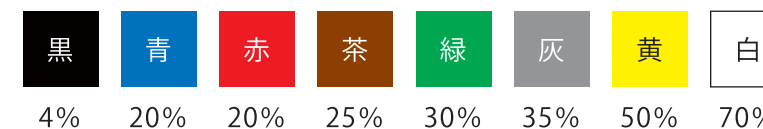
演色性とは照明で物を照らすときに、自然光があつたときの色をどの程度再現しているかを示す指標です。平均演色評価数 (Ra) を使って表すのが一般的です。Ra100 は、自然光があつたときと同様の色を再現していることを意味します。同じ明るさの照明でも、演色性によって人が感じる心理的な明るさ (明るさ感) は変化します。演色性の良い照明は明るさ感が高いため実際の光源が持つ照度 (明るさ) よりも明るく感じるということです。同じ設計照度に対して明るさ感の効果の高い光源を使用することにより快適な夜間景観を創出することができます。



6-5 反射率

光を反射しやすいものは「明るく」、反射しにくいものは「暗く」見えるため、同じ明るさの光でも対象物の色によって人が感じる明るさ感は異なります。照らす素材の色を正しく把握したうえで照明の配置や明るさを検討する必要があります。

<平均的な反射率>



6-6 用語説明

- 間接照明** : 照明の光を壁面や軒下などにあてて、反射した光により明るさをつくる照明手法。
- 輝度** : ある点から発せられている光源のまぶしさを示す光量。単位は cd/m^2 (カンデラ/平方メートル) を用いる。
- 視野** : 目に見える範囲のこと。
- 照度** : ある光源によって照らされている面の明るさの度合い。単位は lx (ルクス) を用いる。
- グレア** : 不適切な輝度によって不快感や視覚の低下を生じさせる「まぶしさ」のこと。
- 光源** : 電気、化学などのエネルギーを光エネルギーに変換して、光を発生させるものの総称。
- 配光** : 光源や照明器具の各方向に対する光度 (光の強さ) の分布。

小倉都心地区夜間景観ガイドライン策定のながれ

本ガイドラインは、小倉都心地区における夜間景観づくりの考え方やエリア毎の演出コンセプト、効果的な照明演出の方法などについて取りまとめたものです。

ガイドラインの策定にあたり、「小倉都心地区夜間景観検討会」を開催し、小倉都心地区にお住まいの方や地元団体、商業者の方から、小倉の夜間景観の現状やまちの魅力、また将来に向けてどのような夜間景観づくりが望ましいかなど、地元愛あふれる多くのご意見をいただきました。

この検討会では、広くご意見を伺うため、地域の代表の方に加え、九州工業大学や北九州市立大学の学生、学識経験者の方にもご参加いただきました。

3回の検討会での貴重なご意見は、「小倉都心地区夜間景観ガイドライン」の策定にあたり、とても参考になりました。

ご協力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

検討会開催概要は次のとおりです。

	開催日時	開催場所	参加者数
第1回	平成29年5月30日(火) 13:30～15:40	北九州市立小倉城庭園	11人
第2回	平成29年6月20日(火) 15:30～17:30	ミクニワールドスタジアム 北九州	8人
第3回	平成29年7月25日(火) 13:00～14:40	北九州市立小倉城庭園	9人

また、平成29年6月20日(火)には、ミクニワールドスタジアム北九州において、照明デザイナー松下美紀氏による夜間景観の考え方に関する講演会を開催しました。

検討会構成員以外に、日ごろから繁華街の魅力向上に取り組んでいる福岡県警や小倉都心地区にお住まいの方、学生など計40名のご参加をいただき、地域の特色を活かした夜間景観の考え方や、魅力の探し方などのポイントについて知識を深めました。

その後、参加された方には、小倉都心地区の夜間景観に関するアンケートにご協力いただき、ガイドライン策定にあたり、参考ご意見とさせていただきます。